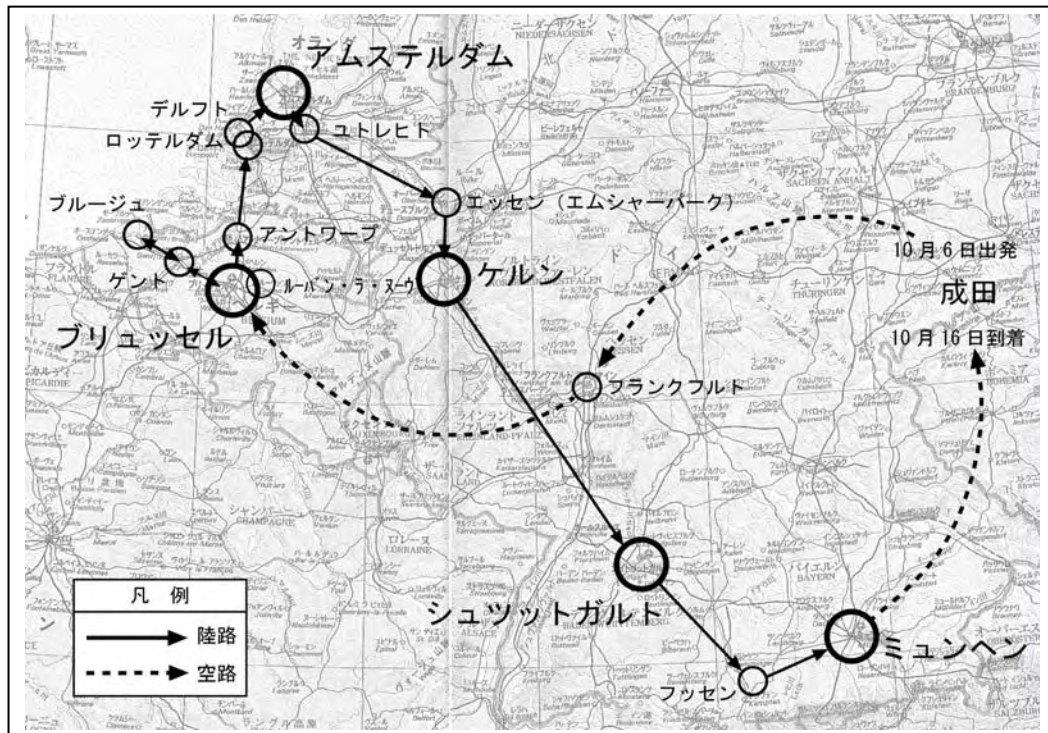


平成19年度 海外調査

人と街を大切に作る欧州の街づくりを訪ねて (ドイツ、ベルギー、オランダの事例に学ぶ)

募集のご案内

- 期 間 : 平成19年10月6日(土)～10月16日(火) 11日間
- 訪問都市 : ドイツ (ミュンヘン、シュツットガルト、ケルン、エッセン等)
ベルギー (ブリュッセル、ブルージュ、アントワープ等)
オランダ (アムステルダム、ロッテルダム、ユトレヒト等)



調 査 企 画 : 財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター

旅行企画・実施 : 株式会社 JTB 首都圏 丸の内支店

◆ テーマ

『人と街を大切に作る欧州の街づくりを訪ねて — ドイツ、ベルギー、オランダの事例に学ぶ — 』

◆ 海外調査の趣旨と内容

「景観法」の施行や「まちづくり三法」の改正等を機に、美しい地域づくりとまちの賑わいづくりが強く求められております。こうした課題に応えるためには、地域に備わる伝統文化などの特性を踏まえつつ、景観法を活用したコントロールとともに、優れた都市デザインを取り入れた市街地整備等の取り組みが不可欠となっております。

こうした観点から、海外の先進地域における伝統を活かした美しいまちなみ形成や最新の優れた都市デザインの実態を調査することは、景観まちづくり・都市デザイン実務者等にとって大いに参考になるものと思われま

す。今般、都市デザイン・都市計画・景観設計の分野で輝かしい数々の実績を積み、指導的立場であられる芝浦工業大学テステム工学部環境システム学科の中野恒明教授を団長として、海外調査を下記のように実施致します。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

- ・公共交通機関とモールの導入により再生された都心の賑わい空間のデザイン等について視察
(シュツットガルト市当局へ公式訪問、ミュンヘン、ケルン等)
- ・自転車都市としての取り組みとウォーターフロント開発の都市デザイン等について視察
(アムステルダム市当局へ公式訪問、ロッテルダム、ユトレヒト等)
- ・歴史的街並み保全と都市再生に向けた取り組みと都市デザイン等について視察
(ブルージュ、アントワープ、ユトレヒト、ロッテルダム等)
- ・自然環境の再生と産業遺構の保全・活用に向けた取り組みと文化的景観デザイン等について視察
(エッセン市 (エムシャーパーク) へ公式訪問)

◆ 団長プロフィール

中野恒明 (なかの つねあき)

芝浦工業大学テステム工学部環境システム学科教授

専門：都市デザイン・都市計画・景観設計

経歴：1974年 東京大学工学部都市工学科卒業

1974-1984年 株式会社総合計画事務所

1984年～ 株式会社アブル総合計画事務所

2005年～ 芝浦工業大学教授

活動：都市計画学会、土木学会、東京建築士会、都市環境デザイン会議、日本都市計画家協会(NPO)、財団法人駐車場整備推進機構ベストパーキング賞選考委員会、山口県景観懇談会委員、都市環境デザイン会議代表幹事 (1992-1994)

受賞：土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞最優秀賞 (2002：門司港レトロ地区の一連の環境整備の設計に関して)

土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞最優秀賞 (2004：松江宍道湖・岸公園の設計)

土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞優秀賞 (2006：皇居周辺道路及び緑地景観整備)

都市計画学会賞石川奨励賞 (共同受賞2000：まちづくりがわかる本-浦女のまちを読むの執筆活動にて)

グッドデザイン賞景観賞施設部門 (1989：門司港レトロのコンクリート照明柱)

グッドデザイン賞景観賞施設部門 (1996：東京都臨海副都心のデザイン照明柱) 他

受託研究：都市景観に係る規制及び誘導手法に関する調査研究 (1999)

建築・まちなみ景観のあり方に関する調査研究 (1995)

景観を構成する素材・材料に関する調査研究 (1995) 他



◆公式訪問（ヒアリング）の概要（予定）

アムステルダム市当局

オランダの首都であるアムステルダムは、商業、金融、文化の中心で、オランダ最大の都市（人口 74 万人）です。中心部（旧市街）は、歴史的景観保存地区となっており、運河沿いに間口の狭いカナルウハスと呼ばれる 17～18 世紀のオランダ特有の建築が並んでいます。代表的な繁華街は、ダム広場を基点とするカルファー通り（歩行者専用道路）、ライツェ広場に続くライツェ通り（トランジットモール）一帯です。これらに見られるように、中心部においては歩行者・自転車優先のまちづくりがなされており、それを支えるために、公共交通機関（トラム、バス）をはじめ、フリンジパーキングの整備によるパーク&ライドシステムの推進、自転車専用道路網の整備と自転車優先の交通システム等が整備されています。

市街地周辺部では、旧市街地を取り囲むように、20 世紀以降に建てられた中層（4～5 階）集合住宅中心の街並みが広がっています。

■街並み景観の形成について

アムステルダム中心部（旧市街）は、歴史的景観保存地区となっており、市の許可なく建物の外観の変更等は認められず、所有者は自らの負担で建物のメンテナンスを義務づけられています（市の担当者が定期的に検査しており、修理が必要な箇所については指摘される）。このため、近代的なショッピングモールやオフィス等の立地に際しては、既存建物の外観を残しつつ内部をコンバージョンしているケースが大半であり、新築の場合には外観を完全に歴史的景観に合わせるように工夫されています。このような歴史的街並み景観形成の考え方、整備手法、課題等についてヒアリングします。

■歩行者・自転車優先のまちづくりについて

オランダは、人口一人当たりの自転車保有率が世界一であり、自転車利用を促進する施策やサービスが充実しています。例えば：

- ・自転車通勤者の所得税を控除（週に 3 日以上、片道 10 km 以上を自転車通勤すると、所得税が年間約 37,000 円控除される。）
- ・自転車と電車・トラムとの連携（多くの電車には自転車積み込み用スペースがあり、自転車用のキップを買えば折り畳まない状態で自転車を電車にのせることができる。市内には自転車道とともにトラム網が張り巡らされており、雨天の日には自転車利用しない人も自動車を利用せずに移動することが可能になっている。）
- ・英語ガイド付自転車観光ツアー（レンタサイクル代込みで 2～3 千円）
- ・自転車専用道路は車道と歩道間に分離して整備されているケースが多く、自転車専用道路の総延長は 2 万 km に達するとも言われている。交差点には自転車専用の信号が設置されている。

このような歩行者・自転車優先のまちづくりの考え方、整備手法、課題等についてヒアリングします。

■新しい都市再生プロジェクトについて

中心市街地を取り囲むように走っているリングと呼ばれる環状高速道路の外側が新しい業務エリアとして急速に開発が進んでいます。その他に、ウォーターフロント及び戦後住宅地区の再生計画、アイバーク・プロジェクト（アイ湖埋め立て地住宅拡大計画）、地下鉄整備、南東地区のスポーツ・娯楽施設建築等があります。

このような新しい都市再生プロジェクトの計画目的、内容等についてヒアリングします。

エムシャーパーク

■エムシャーパークについて

IBA エムシャーパークは、ドイツのルール工業地帯のエムシャー川流域の 17 自治体に跨る 800k m²、人口 200 万人のエリアを対象に、「社会変革とエコロジー」をテーマとした都市再生と地域活性化のためのプロジェクトです。1989 年～1999 年の 10 年間の期限付き有限会社として設立された（ノルトライン・ヴェストファーレン州政府が 100% 出資）IBA エムシャーパーク社がコーディネーターの役割を果たし事業を推進。

「エコノミーとエコロジーの融合的な再生」をテーマに、公共、民間を問わず 150 あまりのプロジェクトを募集し、廃墟の工場を産業遺跡博物館として人が集まる仕掛けをつくる。道路をインダストリアルカルチャールートとしてアートのスポットにする。インダストリアルパークとして機械と自然物が共生して響き合うような庭園をつくる。統一したエコロジカルなデザインをするというように、プロジェクトの誘導がなされました。

エムシャー川流域、全長 75km に及ぶ地域のランドスケープを、有機的な風景として組み立てていく計画で、エムシャー川を背骨に見立て、そこから 6 対の緑地帯が肋骨のように延び、その間に様々な施設が展開されています。その一つ、エッセン市にあるツォルファーアイン炭鉱では、立坑・選炭機・コークス工場など炭鉱コンビナートをそのまま保存し、産業遺産観光

のインフォメーションセンターとしての機能を持つほか、新たな地域産業創出のための拠点として活用されています。炭鉱ボイラー施設を改装したデザインセンターでは、ミュージアム、工房などが設けられています。

このようなエムシャーパークの考え方、整備手法、課題等についてヒアリングします。

シュツットガルト市当局

シュツットガルト市は、ドイツでもっとも豊かな地域といわれているバーデン・ビュルテンベルク州の州都であり、ダイムラー・クライスラー、ポルシェやボッシュなどドイツを代表する世界的な企業の本社がおかれている人口約60万人の商工業都市です。

中央駅正面から歩行者専用道路のケーニッヒストラーセが伸び、通りを進んでいくと左手に新宮殿、広場、旧宮殿、ラートハウス（市役所）、マルクトプラッツ（市場）、ブロイニンガーデパートなどが現われ、市の中心部へと誘われます。

■「風の計画」、「緑のコリドーネットワーク計画」について

大気汚染の深刻化に対応して、大気（風）や水の流れの制御を都市計画に取り込み、道路、緑地、公園、建築物等の再配置を含めたトータルな都市整備計画を策定。「風の計画」、「緑のコリドーネットワーク計画」として都市再開発の中で実現化しています。

■「シュツットガルト21」プロジェクトについて

「シュツットガルト21」プロジェクトは、国鉄の民営化を契機に、シュツットガルト中央駅を含む駅北側地区（区域の大部分が旧国鉄用地）の高度利用を目的とする再開発事業。居住人口12,000人、就業人口24,000人を計画目標とし、1996年に構想着手、1997年に基本計画（ラーメンプラン）を経て、第1期（A1地区）の16haについて1998年10月にBプランを決定し、10年目標で事業を着手。トラム（LRT）の軌道を標準軌に改良し、都心部を地下化し、高速性と地上の歩行空間確保を実現。駅も地上頭端式から地下通過式に改良し、都市間特急ICEの新線とともに幹線鉄道ネットワークの高速化を図る予定。Bプランでは、商業施設、オフィス、住宅などの建築物とともに街区内を有機的に結ぶパサージュ空間やオープンモールの建設を定めています。建物回数も5階を基本とし、高層棟はランドマーク的な位置に限定されています。

このように、当市で進められているトータルな都市整備計画や都市再生プロジェクトについて、それぞれの考え方、整備手法、課題等についてヒアリングします。

◆ その他視察都市の概要

ブリュッセル

ベルギーの首都であるブリュッセルは、中世の美しい街並みを残す古い歴史に刻まれた顔と、ECやNATOの本部がある国際都市の顔をもちます。17世紀の歴史的建造物群が建築的・芸術的に見事な均衡を保っている「グラン・プラス広場」は、ブリュッセルの中心となる広場で世界遺産の1つで、各ギルドの絢爛豪華な建物が並び中世の香りが漂います。かつてヴィクトル・ユゴーは「素晴らしく大きい広場」と呼び、ジャン・コクトーは「絢爛たる劇場」とたたえました。現在は毎日花市が立つほか、さまざまなイベントの会場として利用され、いつも人々で賑わっています。

グラン・プラスにほど近い場所にガラス製の屋根で覆われたアーケード（ギャルリー・サントゥベール）があります。ネオ・ルネッサンス様式の瀟洒や意匠で彩られた「王」「女王」「王子」の3つの通りからなり、1階は店舗、2〜3階は住宅。細かいサッシ割りのヴォールト屋根から差し込む陽光が素晴らしい光と影を演出します。

また、「ベルギーの厨房」とも呼ばれるレストラン街「イロ・サクレ地区」は小さな路地にレストランが密集しており、公共空間を活用したオープンカフェの原型が見られます。

ブルージュ

ブルージュは“天井のない美術館”とも“博物館”とも呼ばれるほど町中に芸術が満ち溢れています。何よりも絵画的な小運河・教会の塔・修道院のモニュメントなど、古い建物がそのまま残るたたずまいが芸術そのものです。

聖母マリア教会（レンガ造の建築としてはヨーロッパ随一）、ギルドホールと鐘楼（かつての商業中心だったマルクト広場の主役を務める。中央に高さ83mの鐘楼が聳え立つ織物ホールの建物）、ゴルフ広場（商業活動中心のマルクト広場に対し、行政活動の中心を担ってきた広場）、ベギナージュ（1245年に開設された「都市の中の小都市」をかたちづくるベギン会の自治共同体施設。現在はベネディクト会女子修道院として利用されている）、市庁舎などが見物です。

ゲント

ゲントは、ベルギー第3の都市で花の都市という異名を持つことでも知られています。

中心部には、自治の象徴である鐘楼と、聖ニコラス教会、聖バーフ大聖堂の塔の3つの塔のほか、市庁舎などが並び建つ姿は中世の繁栄が偲べれます。中心部にほど近いレイエ川沿いに12～17世紀に建設されたギルドハウスが軒を連ねる瀟洒な街並みが見られ、段状切妻破風が統一感をもたらしています。ここは中世において物資輸送の埠頭として利用され、繁栄の源となった場所ですが、現在はカフェが建ち並ぶ憩いの場所となっています。

ゲントの中央駅、セント・ピータース駅は、古風で重厚な造りで、駅ホールには、ベルギーの主要都市の昔風の絵図が描かれています。中世に黄金時代を迎えたこの町は、ブルージュと並ぶ北方ルネサンス発祥の地でもあり、聖バーフ大聖堂にあるファン・アイクによる祭壇画「神秘の子羊」はフランドル美術の最高傑作です。近年は臨海工業地帯として発展し、西フランダース地方の中心都市に生まれ変わり、現代と中世が美しく調和した、人口25万の都市です。

ルーバン・ラ・ヌーヴ

ルーバン・ラ・ヌーヴはルーヴェン・カトリック大学の大学街として新たに建設されたニュータウンです。狭く曲がった街路や小広場の配置、伝統的な建築材料であるレンガの積極的な使用など、中世の街のあり方を手本にして創られたヒューマンスケールの親しみやすい環境と造形が街の特徴となっています。

大ベギナージュの街並みは、17世紀に現在の姿が形成されました。1962年にルーヴェン・カトリック大学が購入し、修復を経て、学生や教員宿舎へと転用されました。小路や小広場、レンガ造の家並みが醸し出す雰囲気は往時へとタイムスリップした感覚を誘います。

アントワープ

豊かな歴史を持つアントワープは、古いものと新しいものが見事に混ざり合っています。さまざまな技法を取り入れたアールヌーボー様式の大邸宅がネオルネサンス様式の別荘を見つめ返し、市内に無数にあるバーやカフェの背景には魅惑的な中世の城がそびえ立っています。

現在は活気ある港湾・臨海工業都市、バロック芸術の都、ダイヤモンド、ファッションの街として国際的に知られています。

ノートルダム寺院周辺には、華やかな市庁舎等、昔の街並みが残され、市内では細い路地にまで路面電車が走っています。

ロッテルダム

ロッテルダムはヨーロッパ最大の港湾都市で、人口規模においてはアムステルダムに次ぐ第2の都市（約60万人）です。第2次世界大戦で旧市街が壊滅的被害を受け、アムステルダムのまちづくり（昔の街並みを忠実に再現）とは対照的に一から都市計画が進められたため、運河を埋め立てて整備した道路や近代建築が建ち並び、近代都市のイメージの強い街並みが見られます。ドイツ人建築家ピート・ブルムによって設計された通称キューブ・ハウス（1984年竣工）のような近代建築が多数見られます。

中央駅南側には、戦災復興の一環として実施されたラインバーン複合再開発地区（商業、業務、住宅、モールの再開発。地区面積86ha、1953年完了）があり、今やアーバンデザインの古典的存在です。

最近では、マース川南岸の旧港湾地区における職住遊一体型の再開発プロジェクト「コップ・ファン・ザイド」があり（1990年代初頭に着手）、なかでも中心となっているウィルヘルミナピア地区ではフォーターフロントに広がる斬新なオフィスビル群、エレガントな高層マンション、リバーサイドの遊歩道等が計画・建設されています。最寄りの地下鉄ヴィルヘルミナ広場駅も開放的な空間づくりがなされています。その他、コップ・ファン・ザイド西側において新たな開発「Port Plan 2020」（旧港の一部を埋め立て、住宅、オフィス、ヨットハーバー等）が計画されています。

デルフト

デルフトは、行政の中心ハーグとロッテルダムの間に位置し、工業技術大学及び研究団地のある人口9.4万人の学園都市です。ボンエルフ（歩車共存道路）発祥の地として有名であり、1979年より国の援助を受けて自転車利用促進のモデル都市として取り組み、系統だった自転車道路網の整備とともに、歩行者、自転車優先の中心地区交通マネジメントを実施する先進都市である。ボンエルフや自転車道路の空間のほか、水辺の風景なども見物です。

ユトレヒト

ユトレヒトはオランダの中央に位置し、国鉄本部が置かれる交通の要衝です。旧市街にはオランダ最古のゴシック建築であるユトレヒト大聖堂の塔がそびえ、発達した運河とともに魅力ある都心が形成されています。中央駅と都心部の間に大規模商業施設「ホーグ・カタリーネ」が立地し、これらを結ぶ通路は街路同様に公共の場として考えられ、市中と中央駅を結ぶメインストリートとして24時間解放されています。「ホーグ・カタリーネ」の一部を含む、中央駅周辺の大規模な再開発計画(Aanpak Stationsgebied)が進行中です。市内にはオランダ最大の大学であるユトレヒト大学があり、学園都市としての側面もあります。

エッセン

エッセンは、鉱山の開発に伴って、ドルトムント、デュッセルドルフとともにルール工業地帯の中心を形成するに至った、人口約60万人（ドイツ第6位）の都市です。

IBA エムシャーパークの開発により、かつての産業の記念碑ツォルフライン炭坑跡は、ユネスコの世界遺産“産業文化の景観”として蘇り、博物館などの文化的目的に活用されています。エッセンとルール地方は、世界のさまざまな文化的景観を誇るエリアに発展しました。灯り博物館 Laternenmuseum はエッセンの市内部にロマンチックな香りを伝えます。宗教的貴重品を所蔵しているのは、エッセンの博物館、エッセンのミュンスター-Essener Münster、バジリカ聖ルゲウス教会 Basilika St. Ludgerus の宝物館です。特に優れているのが、さまざまな芸術、工学博物館、文化史、自然学博物館、そして数え切れないギャラリーです。

中心部では、衰退した都心部を活性化するため歩行者、商業、業務、住宅の再開発を実施。モール化が進み街は活気を取り戻しています。

ケルン

ケルンは、ローマ帝国によって植民市として建設されたライン川中流の古市であり、古代から現代に渡って交易と地域政治の中心として栄えてきました。町の中心には600年もかけて造られた大聖堂の塔がそびえ、オーデコロンの発祥の店も残り、ローマ時代以来の歴史を感じさせつつも、現在では国際的な見本市や展示会が行われる産業都市の側面を持っています。

ライン川流域では、川沿いの国々とEUにより、環境面を中心に、治水面も含む新しい国際的な連携の活動が行われています。国際的な流域連携の先進的な事例といえます。政府間の連携に加えて、市民団体による連携した活動なども行われるようになってきています。ライン川の環境に配慮した治水対策の一つとして、堤防を無くして付近の通路に10cmほどの溝を掘り、洪水時には、この溝に防水壁を立てて浸水を防ぐ仕掛け（移動式高水遮水板）がなされています。

フッセン

オーストリア国境に近い田園風景豊かな、ロマンチック街道の終点の町です。近くにノイシュヴァンシュタイン城、ホーエンシュヴァンガウ城、ヴィース教会といった観光名所が点在します。

ミュンヘン

ミュンヘン市は南部ドイツバイエルン州の州都で人口130万人を越える大都市です。歴代の国王が芸術を愛し、19世紀にはパリやローマに並ぶほどの文化・芸術の都となり、現在も豪華な宮殿や美術館が当時の面影を伝えています。世界的に有名なビール都でもあります。

都心地区では、自動車交通麻痺等により衰退した都心の活性化と郊外化した人口の呼び戻しのため、公共交通（地下鉄、市電、バス、駐車場によるパーク&ライド）とモールの導入によって再生を図っています。モール街の周辺に住宅の再開発を実施し、夜おそくまで人通りが絶えない街に戻りつつあります。

2004年に市民投票が実施され「99mを超える高層建築物の禁止」が決定したほか、「コンパクト・アーバン・グリーン」を基本戦略のキーワードとして、「中央駅西側再開発事業(ミュンヘン21計画)」等の再開発が取り組まれています。

※公式訪問先、視察先に関しては、相手先の都合等により変更となる場合がございます。

◆ご旅行日程表

日次	月 日 (曜)	地 名	現 時 間	交 通 機 関	日 程	食 事
1	2007年 10月6日(土)	東京(成田)発	午 前	LH・BA・JL・NH (乗り継ぎ便)	ヨーロッパ国内にて乗り継ぎブリュッセルへ	機 内
		ブリュッセル着	午 後	専 用 車	着後、ホテルへ ＜ブリュッセル泊＞	機 内 夕：×
2	10月7日(日)	ブリュッセル発 ブルージュ ゲント ルーバン・ラ・ヌーヴ ブリュッセル着		専 用 車	終日：バス利用視察 ブリュッセルからブルージュへ ブルージュ市内視察、歴史的街並みの保存と水辺 再生など市内視察 ブルージュからゲントへ ゲントから大学都市ルーバン・ラ・ヌーヴ ＜ブリュッセル泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
3	10月8日(月)	ブリュッセル発 アントワープ ロッテルダム デルフト アムステルダム着		専 用 車	ブリュッセルからアントワープへ アントワープからロッテルダムへ ロッテルダムからデルフトへ デルフトからアムステルダムへ ＜アムステルダム泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
4	10月9日(火)	アムステルダム		専 用 車 なし (公共交通利用)	終日：アムステルダム市内視察 アムステルダム市役所公式訪問【予定】 自転車政策・ウォーターフロント地区の再生計画など 終日市内視察 ＜アムステルダム泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
5	10月10日(水)	アムステルダム発 ユトレヒト エッセン ケルン着		専 用 車	アムステルダムからユトレヒトへ ユトレヒトからエッセンへ エッセン：エムシャープーク他 公式訪問：エムシャープーク【予定】 エッセン市内視察からケルンへ ＜ケルン泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
6	10月11日(木)	ケルン発 シュツットガルト着		列 車 移 動	午前中：ケルン市内視察 ケルンの歴史地区(世界遺産) ライン川沿いの水辺環境整備 中心市街の歩行者空間 ＜シュツットガルト泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
7	10月12日(金)	シュツットガルト		専 用 車 なし (公共交通利用)	シュツットガルト市公式訪問【予定】 シュツットガルト市内視察 中央駅北地区新都心形成事業(stuttgart21) 「風の計画」「緑の廊下ネットワーク計画」 ＜シュツットガルト泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
8	10月13日(土)	シュツットガルト発 フッセン ミュンヘン着		専 用 車	シュツットガルトからフッセンへ フッセン市内視察 歴史的街並み、城郭 フッセンからミュンヘンへ ＜ミュンヘン泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
9	10月14日(日)	ミュンヘン		専 用 車 なし (公共交通利用)	終日：ミュンヘン市内視察 最新都市デザイン事業・市内の景観 視察：中央駅西側地区再開発事業 ：中心市街の歩行者空間 ＜ミュンヘン泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
10	10月15日(月)	ミュンヘン ミュンヘン発	午 後	専 用 車 LH・BA・JL・NH (直行便または 経 由 便)	出発まで自由行動 空港へ 空路、成田へ ＜機中泊＞	朝：ホテル 昼：× 夕：×
11	10月16日(火)	東京(成田)着	午 前		～お疲れ様でした～	機 内

※調査都市ならびに交通機関・時刻は変更になる場合がございます。
※スケジュールは事情により変更になる場合がございます。ご了承ください。

☆時間の目安

早朝	午前	午後	夜	深夜	
0400	07:00	1200	1800	2300	0400

募集要項

◆旅行期間 平成19年10月6日～10月16日 11日間

◆旅行代金 618,000円

◆募集人員 15名

◆最小催行人員 10名

◆申込締切日 平成19年8月31日(金)

◆旅行代金に含まれるもの

(1)航空運賃:日程表に記載された航空運賃(団体エコノミークラス)

(2)宿泊代金:各地におけるホテル代(お二人部屋利用)

(3)食事代金:朝食9回、昼食0回、夕食0回

(機内食はこの回数に含みませn)

(4)利用交通機関:別紙日程表に記載された団体行動中の乗物代

(5)調査経費:別紙日程表に記載された公式訪問時の通訳、ガイド代

(6)団体行動中の税金・チップ等

(7)手荷物運搬料金(規定範囲内)

(8)成田空港施設使用料

(9)各国空港税

(10)添乗員同行費用

◆旅行代金に含まれないもの

(1)旅券印紙代・証紙代

(5年有効旅券:10,000円、10年有効旅券:15,000円)

(2)個人的性格の費用:日程表に明示されていない飲食代、電話代等

(3)手荷物超過料金

(4)傷害、疾病に関する医療費

(5)任意の海外旅行傷害保険料

(6)国内交通費

(7)シングルルーム追加代金:126,000円【9泊】

(8)ビジネスクラス追加費用:550,000円

(9)国際線「燃油特別付加運賃」:24,000円

※平成19年7月25日現在の料金となります。

※航空会社におきまして、燃油原価水準の異常な高騰に伴い、当該燃油費の一部を燃油価格が一定の水準に戻るまでという一定の期間を定めて国土交通省航空局に申請し認可された料金となります。

なお、燃油特別付加運賃が値上がった場合、追加分を申し受けます。

※パスポートの残存有効期限は入国時6ヶ月以上迄有効なものとなります

◆申込方法

別紙参加申込書に必要事項をご記入の上、旅券(パスポート)のコピーを添付し(株)JTB首都圏丸の内支店にFAXまたは郵便にてご送付ください。後日、渡航に関するご案内および請求書を送付いたします。

尚、旅行代金の振込みは平成18年9月28日(金)までにお済ませいただきますよう、お願い申し上げます。

振込口座：みずほコーポレート銀行
十二号支店 普通1141413
口座名義：株式会社JTB首都圏

◆取消料

お申込後、ご参加者様の都合で参加を取り消される場合、次の取消料がかかります。

○旅行開始日の前日から起算してさかのぼって30日前から3日前まで
.....旅行代金の20%

○旅行開始日の2日前から旅行開始日当日の出発時刻までの取消
.....旅行代金の50%

○旅行開始後の取消および無連絡不参加.....旅行代金の100%

◆海外旅行傷害保険加入のすすめ

ご旅行をより安心できるものとするため、お客様ご自身で十分な旅行保険(疾病・傷害・盗難等)に加入されることをおすすめいたします。

視察先に関するお問い合わせ

財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 BDA二番町ビル

TEL 03-3222-0981 / FAX 03-3222-0986

担当：堀井

旅行のお申し込み・お問い合わせ

JTB首都圏 丸の内支店

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-2 東銀ビル1F

TEL:03-3284-8821 FAX:03-3284-8829

営業時間:9:30~17:30(月~金) 休業日/土・日曜日、祝祭日

総合旅行業務取扱管理者:櫻村 正史 担当:中村・岩橋・木村

・総合旅行業務取扱管理者とは、お客様のご旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関しご不明な点があれば、ご遠慮なく上記の取扱管理者にお尋ねください

旅行企画・実施

JTB首都圏

国土交通大臣登録旅行業第1759号
(社)日本旅行業協会正会員
東京都品川区東品川2-3-11 〒140-8602

